

## 電子情報通信学会 第55回「業績賞」受賞

2018年6月7日に一般社団法人電子情報通信学会より、R&D戦略部の音 洋行、ネットワーク開発部の内山 靖之、NTT未来ねっと研究所の尾花 和昭氏は、「複数ベンダのEPCソフトウェアが動作可能なネットワーク仮想化技術の商用化」の功績により業績賞（口）項（実用化）を受賞しました。

業績賞（口）は電子工学および情報通信に関する新しい機器、または方式の開発、改良、国際標準化でその効果が顕著であり、近年その業績が明確になったものに対して贈られるものです。

業績賞（口）項（実用化）受賞の対象となった「複数ベンダのEPCソフトウェアが動作可能なネットワーク仮想化技術の商用化」は、大規模災害にも強い社会インフラとしての信頼性を確保し、産業のデジタル変革を支える通信インフラとして、いつでも繋がる移動通信ネットワークサービスをリーズナブルなコストで提供するために、通信キャリアのネットワークに仮想化技術を適用するネットワーク仮想化を商用化したものです。受賞した音、内山、尾花氏は、ネットワーク仮想化技術に関する国際標

準化活動を主導し、複数ベンダでの実証実験を通じて技術的課題を解決することで、複数ベンダのEPCソフトウェアが動作可能なネットワーク仮想化技術を2016年3月に世界で初めて商用化しました。

この商用化はネットワーク仮想化における、世界の先行事例であり、国際標準規格に準拠することでマルチベンダの水平分業型エコシステムが実現できることを立証するなど、本商用化による移動通信業界への貢献は非常に高く、その業績は誠に顕著であることが評価され、今回の受賞となりました。

